



平成 22 年 9 月 29 日

各 位

東京都新宿区新宿三丁目 1 番 13 号  
キーウェアソリューションズ株式会社  
代表取締役社長 中島 哲二  
(コード番号：3799 東証第二部)  
問い合わせ先 執行役員経営企画室担当 宇津木 淳克  
(電話 03-5369-1118)

## 特別損失の計上および業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、平成 23 年 3 月期（平成 22 年 4 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日）の第 2 四半期において、下記のとおり特別損失を計上する見込みとなりましたので、その概要をお知らせいたします。

また、最近の業績動向および特別損失の発生の影響を踏まえ、平成 22 年 5 月 13 日付で公表しました業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

### 記

#### 1. 特別損失の計上について

当社は、平成 22 年 3 月 31 日付公表の「業務用ソフトウェア不正使用に関する調査依頼の受信について」の件につき、本日開催の取締役会において、ビジネス・ソフトウェア・アライアンス (BSA) の参加企業との間で、当社が和解金 197,165,214 円を支払う和解契約を締結することを決議いたしました。

当社は、ソフトウェアライセンスの利用について認識の違いが判明いたしましたので、現状のソフトウェア管理・運用レベルの更なる精度の向上をはかるべく、ソフトウェア資産管理システムの導入・教育の徹底等を実施してまいります。

#### 2. 平成 23 年 3 月期連結業績予想数値の修正

##### (1) 第 2 四半期累計期間（平成 22 年 4 月 1 日～平成 22 年 9 月 30 日）

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回発表予想 (A) (平成 22 年 5 月 13 日発表)	7,320	60	26	143	15円70銭
今回修正予想 (B)	7,600	△20	△20	△297	△32円60銭
増減額 (B-A)	280	△80	△46	△440	—
増減率 (%)	3.8	—	—	—	—
(ご参考) 前期第 2 四半期実績 (平成 22 年 3 月期第 2 四半期)	8,303	△696	△689	△714	△78円45銭

## (2) 通期 (平成 22 年 4 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A) (平成 22 年 5 月 13 日発表)	16,850	500	460	514	56円42銭
今回修正予想 (B)	16,850	500	460	227	24円92銭
増減額 (B-A)	0	0	0	△287	—
増減率 (%)	0.0	0.0	0.0	△55.8	—
(ご参考) 前期実績 (平成 22 年 3 月期)	17,197	△546	△482	△854	△93円85銭

## 3. 平成 23 年 3 月期個別業績予想数値の修正

## (1) 第 2 四半期累計期間 (平成 22 年 4 月 1 日～平成 22 年 9 月 30 日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期 純利益	1株当たり 四半期純利益
前回発表予想 (A) (平成 22 年 5 月 13 日発表)	5,180	70	53	165	18円11銭
今回修正予想 (B)	5,450	15	195	△68	△7円46銭
増減額 (B-A)	270	△55	142	△233	—
増減率 (%)	5.2	△78.6	267.9	—	—
(ご参考) 前期第 2 四半期実績 (平成 22 年 3 月期第 2 四半期)	5,884	△574	△530	△534	△58円68銭

## (2) 通期 (平成 22 年 4 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A) (平成 22 年 5 月 13 日発表)	12,000	420	370	422	46円32銭
今回修正予想 (B)	12,000	420	560	354	38円86銭
増減額 (B-A)	0	0	190	△68	—
増減率 (%)	0.0	0.0	51.4	△16.1	—
(ご参考) 前期実績 (平成 22 年 3 月期)	12,415	△473	△435	△684	△75円13銭

## 4. 修正の理由

## (1) 第 2 四半期累計期間

## ① 売上高、営業利益および経常利益

緊急経済対策を始めとする政策の効果などを背景に、景気は緩やかに回復傾向にあるものの、国内の雇用情勢は依然として厳しく、また急激な円高、株安、そして欧米を中心とした景気の下振れ懸念などにより、主要企業は設備投資を抑制する傾向にあり、IT 投資に対する姿勢も依然として厳しい状況が続いております。

このような状況のもと、当社グループは、システム開発の効率化や固定費ならびに販管費等のコスト圧縮に努め、社員の稼働と売上高を確保すべく顧客企業からの低価格化に対する強い要望に応えたことにより、連結、個別ともに売上高は前回予想を上回る見込みであります。しかしながら、収益への影響を吸収するには至らず、連結における営業利益、経常利益につきましては前回予想を下回る見込みであります。個別につきましては、営業利益は前回予想を下回るものの、経常利益は連結子会社からの受取配当金等の計上により前回予想を上回る見込みであります。

② 四半期純利益

業務用ソフトウェア使用にかかる和解金の支払いにともなう特別損失の計上等により、前回予想を下回る見込みであります。

(2) 通期

当社グループがおかれている事業環境は依然として厳しい状況ではありますが、今期より新たにスタートした3ヵ年中期経営計画の施策を確実に実施し、サービス事業の拡大など質的転換に積極的に取り組んでまいります。しかしながら、第2四半期累計期間における特別損失計上の影響を吸収するに至らず、上記のとおり当期純利益を修正いたします。

※本資料に掲載している業績予想は、現時点で得られた情報に基づき算定しており、リスクや不確定要素を含んでいるため、実際の業績と異なる可能性があります。

以上